

(3) 干潟調査の結果

平成30年度の干潟調査は、7団体により6地点で実施されました(図9-1)。その結果、大型台風の上陸が多かったことなどの影響で、昨年度より参加団体数が減少したものの、13綱78種の生物の生息が確認され(表9-2)、昨年度よりも多くの種類の生物が発見されました(表9-3)。特に多いのが軟甲綱で、23種確認されました。また、確認された調査地点が最も多かったのがホンビノスガイ及びコムツキガニで、5地点で生息が認められました。

さらに、今回確認された生物種について、環境省レッドリスト(環境省、2018年)及び海洋生物レッドリスト(環境省、2017年)への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)と評価される種が1種、準絶滅危惧(NT)と評価される種が6種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト(環境省及び農林水産省、2016年)への掲載の有無についても調べたところ、特定外来生物は含まれていなかったものの、総合対策外来種が7種含まれていることが分かりました。



図9-1 干潟調査の実施地点

表 9-2 干潟調査でみられた生物種

綱	科	種名		調査場所					環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリスト ※	生態系被害防止 外来種リスト ※
				東京		千葉				
				葛西海浜公園西なぎさ	多摩川河口	お台場海浜公園	東京港野鳥公園前浜干潟	花見川右岸・磯部新田公園付近		
和名	学名	カテゴリー	カテゴリー							
単子葉植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>	○						
鉢虫	ミスクラゲ	ミスクラゲ	<i>Aurelia aurita</i>	○	○					
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Obolus formosa</i>	○						
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>				○			
渦虫	ツノヒラムシ	オオツノヒラムシ	<i>Planocera multitentaculata</i>			○				
	ヒラムシ	-	-	○						
多毛	ゴカイ	アシナゴゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>				○			
		チロリ	<i>Glycera chirori</i>			○	○			
		-	-	○			○			
	ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>			○	○			
	ウロコムシ	-	-				○			
腹足	ウミニナ	ホソウミニナ	<i>Batillaria cumingii</i>				○			
	タマキビ	タマキビガイ	<i>Littorina brevicula</i>			○				
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>	○			○			
	アッキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>			○				
二枚貝		ホトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>				○			
		ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	○					総合対策外来種	
		コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>			○	○	○	総合対策外来種	
		イタボガキ	マガキ	○		○	○			
		ハカガイ	ハカガイ	○						
			シオフキガイ	<i>Mactra veneriformis</i>	○					
			-	-	○					
			-	-	○					
		マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○	○				
		ニッコウガイ	ヒメシラリガイ	<i>Macoma incongrua</i>				○		
		フナガタガイ	ウネナントマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>				○	準絶滅危惧 (NT)	
		オオノガイ	オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>				○	準絶滅危惧 (NT)	
		オキナガイ	ソトオリガイ	<i>Laternula marilina</i>			○	○		
		シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○				準絶滅危惧 (NT)	
			オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	○			○		
	マルスタレガイ	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	○	○	○	○	総合対策外来種		
		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○			○	絶滅危惧II類 (VU)		
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○		○			
	カキ	-	-	○						
顎脚		タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>			○	○		総合対策外来種	
		シロスジフジツボ	<i>Fistulabalanus albicostatus</i>				○			
		アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>			○			総合対策外来種	
		ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>				○	○	総合対策外来種	
			-	-			○			
軟甲		フナムシ	<i>Ligia exotica</i>			○	○			
		ヤドカリ	-			○				
		ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i>			○	○	○	
		アナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○			○		
		ハサミシヤコエビ	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedea astacina</i>	○					
		ウナギガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>				○	総合対策外来種	
		ガザミ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>				○		
		コメツキガニ	コメツキガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	○	○				
			コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	○	○	○	○		
		オサガニ	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○				準絶滅危惧 (NT)	
			ベンケイガニ	<i>Sesarma intermedium</i>	○					
			クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	○		○			
			アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	○		○			
			カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	○		○			
			アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>	○		○			
			ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○					
			タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	○		○	○		
			イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>				○		
	コブシガニ	マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>	○						
	イワガニ	イワガニ	<i>Pachygrapsus crassipes</i>			○				
	テナガエビ	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>				○			
	スナモグリ	ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i>	○						
	ヨコエビ	-	-				○			
ホヤ	フクロホヤ	マンハッタンホヤ	<i>Molgula manhattensis</i>	○						
軟骨魚		アカエイ	<i>Dasatis akajei</i>			○				
		スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>				○			
		イサキ	コショウダイ	<i>Plectorhynchus cinctus</i>				○		
		キス	シロギス	<i>Silago japonica</i>				○		
		コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.</i>				○		
		ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>				○		
		ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>				○		
		ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>				○		
		コイ	マルタ	<i>Tribolodon brandti</i>				○		
			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○					
硬骨魚		ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○		準絶滅危惧 (NT)	
		ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>	○						
		アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>				○			
		トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>				○		準絶滅危惧 (NT)	
		チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>				○			
		ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>				○			

※環境省レッドリスト/海洋生物レッドリスト：評価カテゴリーは絶滅 (EX)、野生絶滅 (EW)、絶滅危惧 1A 類 (CR)、絶滅危惧 1B 類 (EN)、絶滅危惧 2 類 (VU)、準絶滅危惧 (NT)、情報不足 (DD)、絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) の 8 つに分けられる。

絶滅危惧 2 類 (VU) は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧 (NT) は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。

※生態系被害防止外来種リスト：定着を予防する外来種 (定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種) の大きく 3 つに分類される。

表 9-3 干潟調査でみられた生物種（昨年度との比較）

綱	科	種名		調査年		
		和名	学名	平成29年 (12団体19地点)	平成30年 (7団体6地点)	
単子葉植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>		○	
	コノハノリ	アヤギヌ	<i>Caloglossa continua</i>	○		
真性紅藻	オゴノリ	オゴノリ	<i>Gracilaria vermiculophylla</i>	○		
	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysaora pacifica</i>	○		
鉢虫	ミスクラゲ	ミスクラゲ	<i>Aurelia aurita</i>	○	○	
	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Olinias formosa</i>		○	
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>		○	
渦虫	ツノヒラムシ	オオツノヒラムシ	<i>Planocera multitentaculata</i>		○	
	ヒラムシ	-	-		○	
多毛	ゴカイ	ゴカイ	<i>Hediste japonica</i>	○		
		アシナゴゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>	○	○	
		チロリ	<i>Glyceria chirori</i>		○	
		-	-		○	
	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>		○	
	ウロコムシ	-	-		○	
腹足	コガモガイ	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>	○		
	ウミミナ	ホソウミミナ	<i>Batillana cumingii</i>	○	○	
	タマキビ	タマキビガイ	<i>Littorina brevicula</i>	○	○	
	ニシキウスガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	○		
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>	○	○	
	アツキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>		○	
二枚貝	イガイ	ホトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>	○	○	
		ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	○	○	
		コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	○	○	
	イタボガキ	マガキ	<i>Crassostera gigas</i>	○	○	
		ハカガイ	<i>Mactra chinensis</i>	○	○	
		シオフキガイ	<i>Mactra veneriformis</i>	○	○	
		-	-		○	
		マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○	○
		ニッコウガイ	ヒメシラトリガイ	<i>Macoma incongrua</i>		○
		フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>	○	○
		オオノガイ	オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>		○
		オキナガイ	ソトオリガイ	<i>Laternula marilina</i>	○	○
顎脚	シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○	○	
		オキシジミ	<i>Cyrtina sinensis</i>	○	○	
		ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	○	○	
	マルスダレガイ	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○	○	
		カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>	○	○	
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	
		-	-		○	
		タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	○	○	
		シロスジフジツボ	<i>Fistulabalanus albicostatus</i>	○	○	
		アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>		○	
	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>		○		
	-	-		○		
	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>	○		
軟甲	フナムシ	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>	○		
		フナムシ	<i>Ligia exotica</i>	○	○	
	ヤドカリ	-	-		○	
	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i>	○	○	
	アナジャコ	アナジャコ	<i>Urogebia maior</i>	○	○	
	ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>	○	○	
	ワタリガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	○	○	
	ガザミ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>		○	
	コメツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	○	○	
		コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	○	○	
	オサガニ	オサガニ	<i>Macrothalamus abbreviatus</i>	○		
		ヤマトオサガニ	<i>Macrothalamus japonicus</i>	○	○	
		ベンケイガニ	<i>Sesarma intermedium</i>		○	
	ベンケイガニ	クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	○	○	
		アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	○	○	
		カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	○	○	
		クシチガニ	<i>Parasesarma plicatum</i>	○		
		アカチガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>		○	
	モズガニ	ウモレベンケイガニ	<i>Clistocheiloma sinense</i>	○		
		ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○	○	
		タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	○	○	
		イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>		○	
	コブシガニ	マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>	○	○	
	イワガニ	イワガニ	<i>Pachygrapsus crassipes</i>		○	
	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	○	
			スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	○	
			スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>	○	
			ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>		○
	スナモグリ	ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i>		○	
	ウミナナフシ	ウミナナフシ	<i>Paranthura japonica</i>	○		
	ヨコエビ	-	-		○	
	ホヤ	フクロボヤ	マンハッタンボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>		○
アカエイ		アカエイ	<i>Dasysia akaiei</i>	○	○	
軟骨魚	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>		○	
	タイ	クロタイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	○		
	イサキ	コショウダイ	<i>Plectorhynchus cinctus</i>		○	
	キス	シロギス	<i>Sillago japonica</i>		○	
	コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.</i>		○	
	ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>		○	
	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>		○	
	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>	○		
	硬骨魚	マルタ	マルタ	<i>Tribolodon brandti</i>		○
		マハゼ	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○
		ミズハゼ	ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	○	○
		マサコハゼ	マサコハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	○	
ハゼ		ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>		○	
		アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>		○	
		トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>		○	
		チヂブ	<i>Tridentiger obscurus</i>		○	
	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>		○		



コアマモ



ヒラムシの仲間



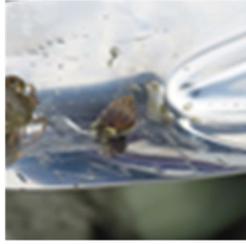
チロリ



ゴカイの仲間



ミズヒキゴカイ



アラムシロガイ



ムラサキイガイ/
フジツボの仲間



コウロエンカワヒバリガイ



マガキ



バカガイ



シオフキガイ



ヒメシラトリガイ



ウネナシトマヤガイ



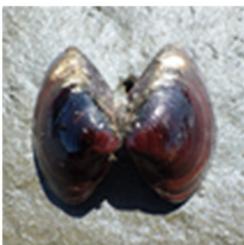
ソトオリガイ



ヤマトシジミ



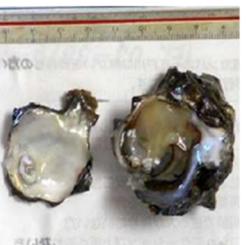
ホンビノスガイ



ハマグリ



アサリ



カキの仲間

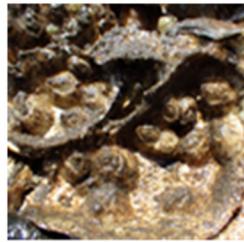


タテジマフジツボ

図 9-2 東京湾の干潟でみられた生物 (1)



シロスジフジツボ



ヨーロッパフジツボ



ヤドカリの仲間



ユビナガホンヤドカリ



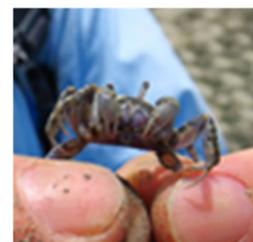
アナジャコ



ハサミシャコエビ



コメツキガニ



コメツキガニ



ヤマトオサガニ



カクベンケイガニ



ケフサイソガニ



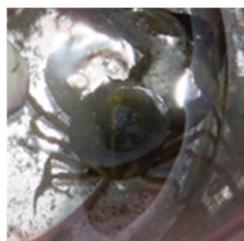
ケフサイソガニ



タカノケフサイソガニ



イソガニ



マメコブシガニ



ユビナガスジエビ



ニホンスナモグリ



マハゼ



ミミズハゼ



ヒモハゼ

図 9-3 東京湾の干潟でみられた生物 (2)



アベハゼ



チチブ

図 9-4 東京湾の干潟で見られた生物 (3)

(4) カニ生息一斉調査について

今年度は干潟調査の一環として「カニ生息一斉調査」を新たに設け、調査シートを作成し、参加団体に配付しました（図 9-5、9-6）。今年度は大型台風の上陸が多かったことなどの影響もあり、4 団体により 3 地点でのみ調査が実施され、そのうち本調査シートが利用されたのは 1 団体による調査のみでした。調査結果は干潟調査の結果（表 9-2）に含まれています。ここでは、調査シート裏面のスケッチ欄に描かれたカニの絵をご紹介します（図 9-7）。

とうきょうわん せい そく いっ せい ちょうさ ちょうさ
東京湾 カニ生息一斉調査 調査シート
(参加者用)

1. 調査情報

調査した日時	平成 年 月 日 時～時	調査した人	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大人
天気/気温	<input type="checkbox"/> 晴れ <input type="checkbox"/> 曇り <input type="checkbox"/> 雨 / 気温 (おおよそ) ℃		
調査した場所			
場所の様子 (複数可)	<input type="checkbox"/> 砂地 <input type="checkbox"/> 泥地 <input type="checkbox"/> ヨシ原 <input type="checkbox"/> 林、草地 <input type="checkbox"/> 真水の水路 <input type="checkbox"/> 石ころ <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> カキの間		

2. 観察された生き物

観察された生き物	発見数 (見つけたらチェック!)	見つけた場所の様子 カニの特徴 (大きさ、色など)
チチュウカイミドリガニ (P67, P216)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
マメコブシガニ (P66, P216)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ケフサイソガニ (P93, P221)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
タカノケフサイソガニ (P93, P221)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ハマガニ (P94, P222)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
アシハラガニ (P95, P222)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
アカテガニ (P96, P223)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
クロベンケイガニ (P96, P223)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
クシテガニ (P96, P223)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ウモレベンケイガニ (P96, P223)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
アカテガニ (P96, P223)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
コメツキガニ (P101, P227)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
チゴガニ (P101, P227)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
オサガニ (P103, P229)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ヤマトオサガニ (P103, P229)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
(その他、種類が分かったカニ)	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
種類が分からなかったカニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	

種類が分からないときは、「干潟ベントフィールド図鑑 (日本国際湿地保全連合)」が参考になるよ! (カニの名前のうしろに、この図鑑のページ数が書いてあるよ!)

裏面のスケッチ欄も使ってみてね!



図 9-5 カニ生息一斉調査の調査シート (表面)



もし気に入ったカニがいたら、スケッチしてみよう！

カニの ^{なまえ} 名前	
きい 気に入ったポイント	

(ここに^{えか}絵を書いてね)

--

～．．．．ご参加されたカニ生息一斉調査についてアンケートにご協力ください～．．．．

ご参加者のご年齢	<input type="checkbox"/> ～19歳 <input type="checkbox"/> 20～29歳 <input type="checkbox"/> 30～39歳 <input type="checkbox"/> 40～49歳 <input type="checkbox"/> 50～59歳 <input type="checkbox"/> 60歳～
お住まいの地域	<input type="checkbox"/> 東京都 <input type="checkbox"/> 埼玉県 <input type="checkbox"/> 千葉県 <input type="checkbox"/> 神奈川県 <input type="checkbox"/> その他()
ご参加のきっかけ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 雑誌・チラシ <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> その他()
今回のカニ一斉調査の満足度	<input type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> ややよかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> ややよくなかった <input type="checkbox"/> よくなかった
その他、ご意見・ご感想、改善点などお聞かせください	

図 9-6 カニ生息一斉調査の調査シート (裏面)

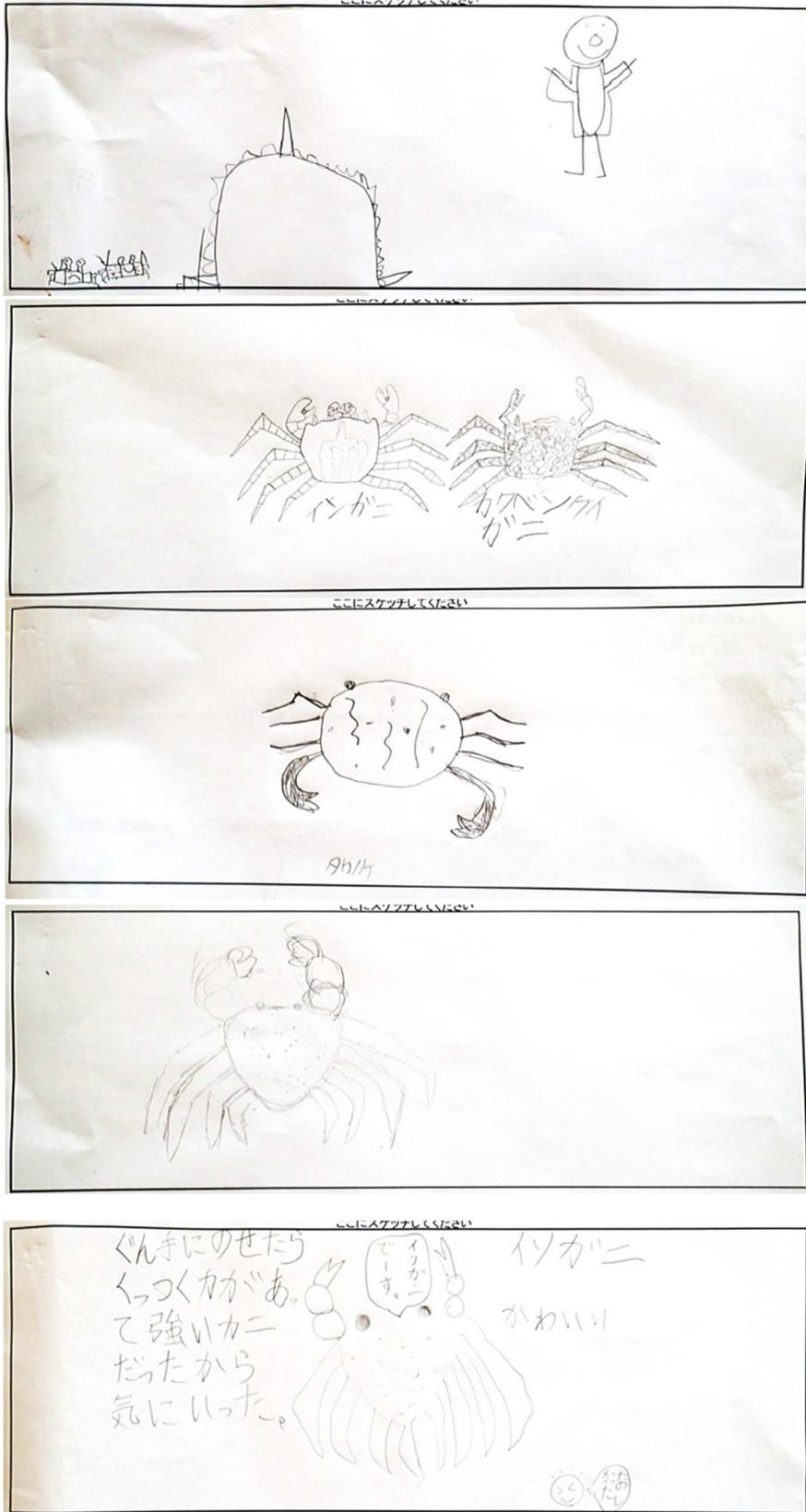


図 9-7 調査シート裏面に描かれたカニの絵

(5) 各調査のレポート

各調査のレポートを紹介します。

干潟調査のレポート①

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
生き生き東京湾研究会	葛西海浜公園西なぎさ	2018年7月14日

葛西海浜公園西渚生物調査

生き生き東京湾研究会

2018年7月14日 亀田泰武

1. はじめに

大潮の干潮時、西渚を調査。当日干潮は11:54で-2cm。沖に張られたのネット近くまで行って所々砂浜を熊手で掘って状態を調べた。相変わらず生物量は非常に少なかった。

2. 観察

岸から所々砂浜を掘りながら沖の方に移動していった。

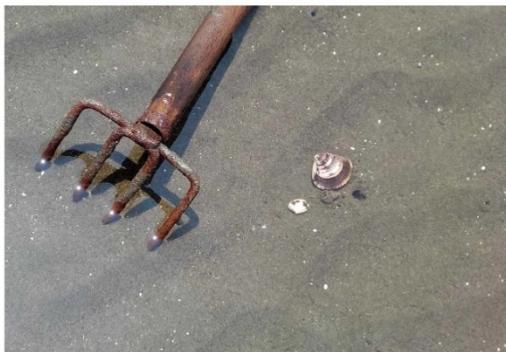


沖の方に行くまで、小さな穴があちこちにあって、熊手で少し深く掘ってもなにも出てこなかった。専門家に聞いたらかニの穴ではないかのこと。

沖の方に行ったとき、時々アサリやバカ貝の稚貝が見られた。

ネット際近くで、7cm程度のホンピノスと3cm程度のハマグリを各一個見つけた。ハマグリそばにはアサリ稚貝。

また海水がお湯のような状態になって弱っていたのか、小さなマテ貝が一つ表に飛び出していた。



小さい魚が見られた。ハゼにしてはスマートに見えるように思えた。また1cmくらいのカニを見ることがあったが、あっという間に砂にもぐってしまい、写真も撮れなかった。

沖の方で、家族で潮干狩りに来ていた人の掘った物を撮影させてもらった。大きなハマグリが3~4個、シオフキなど。

3. 考察

海浜公園は家族の遊び場であるので干潟というより砂浜という方が存在価値があるように見える。その意味から、生物が少ない砂浜化することはいいかもかもしれない。ただ湾奥にあって波もそうきつくはないので二枚貝は生息できそうである。

現在、まれではあるが貝殻が厚い大小のハマグリやホンピノス貝がいる一方、アサリが殆どいないということは定着したときに足糸でつかまるものがなく、軽いため流されてしまうことによると考えられ、礫の多い渚にすれば貝類もけっこういる海浜公園にできると思われる。



干潟調査のレポート②

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
大田区環境マイスターの会	多摩川河口	2018年7月13日

カニ生息調査の結果（羽田空港脇 A 地点）

団体名	大田区環境マイスターの会	
調査地点名	下記の位置座標を起点とし、護岸から川辺までとその周辺域 11:06 潮位 0 cm	
位置座標	緯度	35°32.217'
	経度	139°46.714'
実施年月日	2018年7月13日 金曜日 10:00～12:30	

種類名	生息確認	備考
ケフサイソガニ	多数	
マメコブシガニ	2	
コメツキガニ	多数	姿は少ないが、周りにたくさんの砂団子がある巣穴が多数見られた
ヤマトオサガニ	多数	



ヤマトオサガニ(上) マメコブシガニ(下)

カニ生息調査の結果（羽田空港脇 B 地点）

団体名	大田区環境マイスターの会	
調査地点名	下記の位置座標を起点とし、護岸から川辺までとその周辺域 11:06 潮位 0 cm	
位置座標	緯度	35°32.409'
	経度	139°46.274'
実施年月日	2018年7月13日 金曜日 10:00~12:30	

種類名	生息確認	備考
ケフサイソガニ	多数	下記との比率は確認不可
タカノケフサイソガニ	多数	
コメツキガニ	多数	姿は少ないが、周りにたくさんの砂団子がある巣穴が多数見られた
ヤマトオサガニ	多数	



ヤマトオサガニの群（川に近い砂地の黒い点）



コメツキガニの巣の入り口

カニ生息調査の結果（海老取川河口 C 地点）

団体名	大田区環境マイスターの会	
調査地点名	下記の位置座標を起点とし、護岸から川辺までとその周辺域 11:06 潮位 0 cm	
位置座標	緯度	35°32.756'
	経度	139°44.303'
実施年月日	2018年7月13日 金曜日 10:00~12:30	

種類名	生息確認	備考
チゴガニ	多数	
ヤマトオサガニ	多数	

カニ生息調査の結果（大師河原 D 地点）

団体名	大田区環境マイスターの会	
調査地点名	下記の位置座標を起点とし、ヨシ原から川辺までとその周辺域 11:06 潮位 0 cm	
位置座標	緯度	35°32.705'
	経度	139°44.312'
実施年月日	2018年7月13日 金曜日 10:00~12:30	

種類名	生息確認	備考
アシハラガニ	数匹	
クロベンケイガニ	数匹	
ベンケイガニ	数匹	
カクベンケイガニ	数匹	
コメツキガニ	数匹	
チゴガニ	多数	
ヤマトオサガニ	多数	



ヤマトオサガニの群



コメツキガニ

カニ生息調査地点図



この調査は、東京湾環境一斉調査の生物調査(底生生物)の際に、カニの生息状況の確認も行ったものです。

したがって、調査地点のカニの生息数を正確にカウントするまでには及びませんでした。

以上

干潟調査の結果

団体名	大田区環境マイスターの会	
調査地点名	多摩川河口大田区側	
位置座標 (可能であれば)	緯度	下記参照
	経度	下記参照
実施年月日	2018年7月13日(金)	
参加人数(人)		

発見した生物の種名				特記事項など
アサリ	シオフキ	ベンケイガニ	ヤマトシジミ	
アシハラガニ	ソトオリガイ	ホンビノス	紅藻リ	
アナシヤコ	チコガニ	マガキ		
アラムシロ	ニホンスナモクリ	マテガイ		
オキシジミ	ハカガイ類	マハセ		
カクベンケイガニ	ハサミシヤコエビ	マメコブシガニ		
クロベンケウガニ	ハナガサクラゲ	マンハッタンホヤ		
ケフサイソガニ	ヒラムシ類	ミスクラゲ		
ゴカイ類	フシツボ類	ムラサキガイ		
コムツキガニ	フナムシ	ヤマトオサガニ		

[I] 調査概要

1. 調査者

大田区環境マイスターの会

2. 調査場所

多摩川河口大田区側

3. 調査日

2018年7月13日（金）

4. 調査対象生物

貝類および節足動物類など

5. 調査目的

昨年は同調査に初めて参画して調査方法を確立するとともに、同干潟の豊かな生息実態を確認することができた。

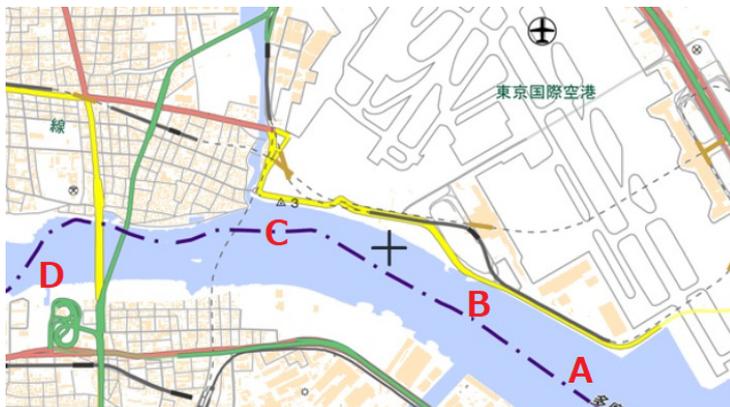
本年は、この生息実態の調査を継続し、長期レンジでの生態系を確認するとともに、今後の同干潟の環境保全に役立てる。

[II] 調査方法

1. 調査地点

調査地点は、昨年と同じ多摩川の0 km ポイント (B) を中心に、海側約 800 m (A) と上流約 1 km (C)、さらに約 1 km 上流の(D)をサンプル採取地点としたが、(C) 地点は地形が変化し採取が困難であったことから、約 50 m 下流に変更した。

[図-1] 調査地点の地図



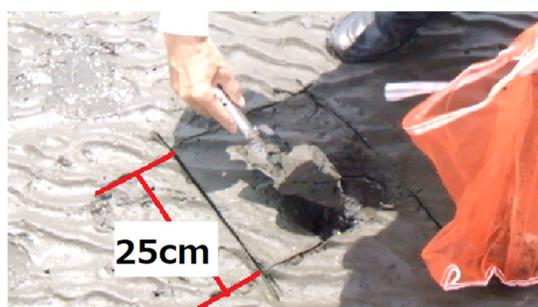
[表-1] サンプル採取地点の場所

サンプル採取地点		場所	
A	1	河口先端域	陸側
	2		中間部
	3		海側
B	1	多摩川 0 km ポイント	陸側
	2		川側
C		海老取川合流地点	川側
D	1	多摩川大師橋上流	陸側
	2		川側

2. サンプル採取方法

各採取地点の干潟で 25 cm 四方、深さ 10 cm の土壌を採取。約 1 mm メッシュの袋にこの土壌を入れ、流水にて土砂を洗浄除去し、残渣中にある生物を確認した。

また、土壌採取後湧き出した水を採取し、水温、pH および塩分濃度を測定した。



[写真-2] サンプル砂泥の採取



[写真-3] 生物の確認作業

3. 周辺部の調査

各地点での周辺生物を捕獲し観察した。

4. 計測機器

- 1) pH : 東亜 DKK (HM-30p) ポータブル pH 計
測定範囲 pH 1~12
- 2) 塩分濃度 : Dretac (EN904) 防水塩分計
測定範囲 0.1~5.0 %
- 3) 位置 : エンペックス気象計株式会社製 GPS 計
- 4) 温度 : 横河電気製温度計 Model2455

[Ⅲ] 調査結果

1. 調査実施時期

[表-2] 調査地点と実施時期

調査日・時間	干潮時間（潮位）
7月13日（金）AM10:00～12:30	AM11:06（0）

2. 調査地点の位置

[表-3] 調査地点の測位

地点	サンプル採取地点	GPS	
		北緯	東経
A	1	35° 32.217'	139° 46.714'
	2	35° 32.208'	139° 46.699'
	3	35° 32.200'	139° 46.686'
B	1	35° 32.409'	139° 46.274'
	2	35° 32.399'	139° 46.265'
C		35° 32.756'	139° 44.303'
D	1	35° 32.705'	139° 44.312'
	2	35° 32.643'	139° 44.284'

3. 調査地点の水質

[表-4] 調査地点の水質

外気温：28～30℃

地点		調査項目				
		水温（℃）	pH	塩分濃度（%）	底質	臭気
A	1	31	7.61	2.2	砂質	
	2	34	7.97	2.1	砂質	
	3	32	7.32	2.1	砂質	
	河川水	—	7.50	2.3	—	
B	1	34	7.41	1.8	泥質	
	2	36	7.82	2.0	砂質	
	河川水	—	7.76	1.3	—	
C		35	7.27	1.7	泥質	硫化臭（強）
	河川水	—	7.43	1.1	—	
D	1	35	7.47	1	泥質	硫化臭（弱）
	2	31	7.56	1.2	砂質	
	河川水	—	7.60	0.8	—	

4. サンプル採取で確認した貝

4-1) 貝の種類と個体数

[表-5] 地点別採取生物の種類別個体数

地点		貝の種類				
		アサリ	バカガイ類	ヤマトシジミ	マテガイ	ソトオリガイ
A	1	7	2	0	0	0
	2	22	0	0	0	0
	3	9	0	1	0	1
B	1	5	0	10	0	4
	2	4	0	1	0	2
C		1	0	2	0	0
D	1	0	0	4	0	0
	2	1	0	6	0	0
計		50	2	24	0	7

4-2) 貝の大きさ

① アサリ (単位: mm)

[表-6] アサリの大きさ別個体数

	A1	A2	A3	B1	B2	C	D1	D2	計
0~5	4	11	5	5	4	0	0	1	30
6~10	1	4	4	0	0	1	0	0	11
11~15	2	6	0	0	0	0	0	0	8
16~20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21~25	0	1	0	0	0	0	0	0	1
26~30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	22	9	5	4	1	0	1	50

② ヤマトシジミ (単位 : mm)

[表-7] ヤマトシジミの大きさ別個体数

	A1	A2	A3	B1	B2	C	D1	D2	計
0~5	0	0	0	10	0	0	0	0	10
6~10	0	0	1	0	1	1	3	2	7
11~15	0	0	0	0	0	1	1	4	5
16~20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21~25	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	10	1	2	4	6	22

5. 周辺の生物

サンプル採取した生物以外にも各地点とその周辺で捕獲し観察した生物。

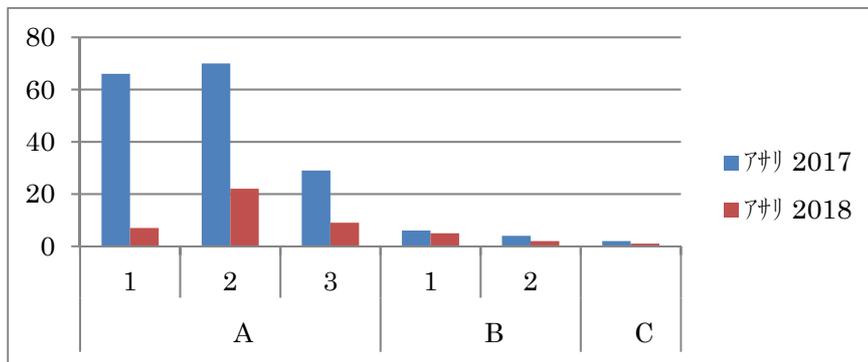
[表-8] 周辺の生物一覧

A1~A3 とその周辺		B1~B2 とその周辺		C とその周辺	D1~D2 とその周辺		
マハセ	マンハッタンホヤ	ヤマトオサガニ	フナムシ	マカキ	ムラサキイガイ	ヤマトオサガニ	ゴカイ類
オキシジミ	ヒラムシ類	マメコフシガニ	ヤマトオサガニ	オキシジミ	ヤマトオサガニ	クロハシキウガニ	チコガニ
ホンビノス	紅藻ノリ	ケフサイソガニ	コメツキガニ	シオフキ	チコガニ	ベンケイガニ	コメツキガニ
シオフキ	ゴカイ類	コメツキガニ	ケフサイソガニ	フジツボ類		カクハシキウガニ	アシハラガニ
ハサミシヤコエヒ	アラムシロ	ニホンスナモグリ	ニホンスナモグリ	ゴカイ類			
アナシヤコ	ミスクラゲ		ハサミシヤコエヒ	ミスクラゲ			
	ハナカサクラゲ			ハナカサクラゲ			

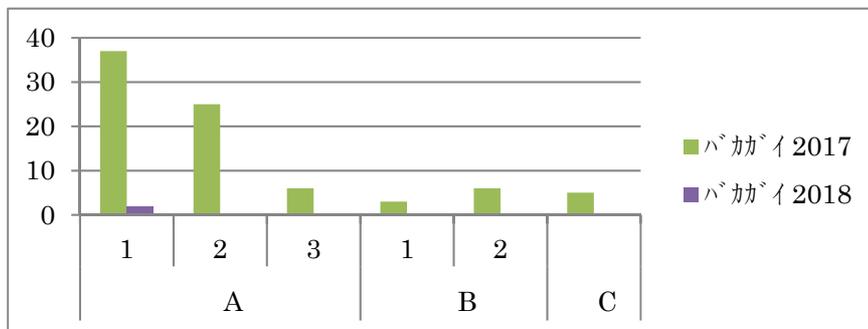
6. 前年との比較

① 貝の生息数

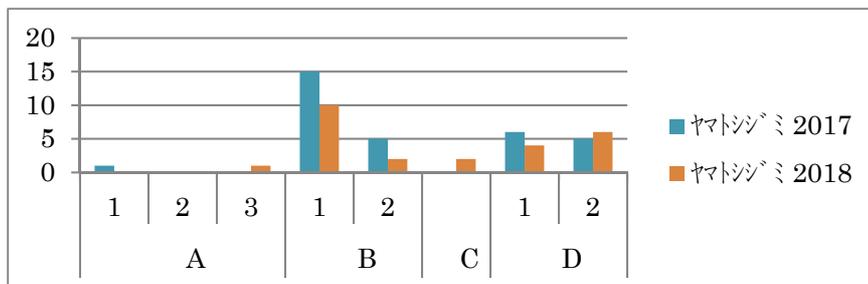
[図-2] アサリの地点別採取生物の種類別生息数



[図-3] 昨年との比較：地点別バカガイ類生息数



[図-4] 昨年との比較：地点別ヤマトシジミ生息数



海水系のアサリおよびバカガイ類が大幅に減少し、大きさも小さくなっていたが、ヤマトシジミは前年と大きな違いは確認できなかった。

[IV] 結論

前年に比べ海水系貝(アサリやバカガイ類)が大幅に減少しているが、自然変動の可能性も考えられることから、来年以降も調査を継続して実態把握を行っていきたい。

また、調査 2 回目で習熟度がアップしたこともあり、新たな生物を発見に繋がったことは良かった。

謝意

調査に際して以下の会の方々にご協力をいただき有難うございました。

- ・羽田水辺の楽校（多摩川とびはぜ倶楽部）
- ・海辺つくり研究会

以上

主な確認生物の写真

		
<p>ヒラムシ類</p>	<p>マメコブシガニ(左) / アラムシロ</p>	<p>ニホンスナモグリ(左) / ホンビノス</p>
		
<p>ヒラムシ類(上方) / マンハッタンボヤ</p>	<p>ホンビノス</p>	<p>ムラサキイガイ / フジツボ類</p>
		
<p>ヤマトシジミ(左) / ソトオリガイ</p>	<p>ケフサイソガニ</p>	<p>コメツキガニ</p>
		
<p>ハサミシャコエビ(左) / シオフキ(中) / ヤマトオサガニ(右上)</p>	<p>ヤドカリ</p>	<p>カワゴカイ類</p>
		
<p>ヒモハゼ</p>	<p>コアマモの群生</p>	<p>生物の生息地</p>

干潟調査のレポート③

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
三洋テクノマリン株式会社	花見川右岸・磯部新田公園付近	2018年8月13日

団体名	三洋テクノマリン株式会社	
調査地点名	花見川右岸・磯部新田公園付近（千葉県千葉市花見川区）	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35°39'00.16"N
	経度	140°03'35.85"E
実施年月日	平成30年8月13日 調査時間：11:40～13:40 気温：29.7℃、水温：29.8℃	
参加人数（人）	2人	

発見した生物の種名	特記事項など
ホトトギスガイ	滞筋でみられた。
コウロエンカワヒバリガイ	護岸、カキ礁でみられた。
マガキ	護岸、カキ礁でみられた。
ヒメシラトリガイ	砂泥質干潟でみられた。
ウネナシトマヤガイ	護岸、カキ礁でみられた。
ヤマトシジミ	砂泥質干潟、滞筋でみられた。
ホンビノスガイ	砂泥質干潟でみられた。
ハマグリ	砂泥質干潟で死がいのみられた。
アサリ	砂泥質干潟でみられた。
オオノガイ	砂泥質干潟で死がいのみられた。
ソトオリガイ	砂泥質干潟で死がいのみられた。
チロリ属	砂泥質干潟でみられた。
ミズヒキゴカイ	砂泥質干潟でみられた。
タテジマフジツボ	護岸、カキ礁でみられた。
ヨーロッパフジツボ	護岸、カキ礁でみられた。
シロスジフジツボ	護岸、カキ礁でみられた。
ユビナガスジエビ	潮だまり、滞筋でみられた。
ユビナガホンヤドカリ	護岸、潮だまり、滞筋、カキ礁でみられた。
アナジャコ	砂泥質干潟でみられた。
コメツキガニ	砂泥質干潟でみられた。
タカノケフサイソガニ	護岸、砂泥質干潟、カキ礁でみられた。
ミミズハゼ	護岸（カキ殻の間）でみられた。

マハゼ	濡筋でみられた。
アベハゼ	濡筋でみられた。
チチブ	濡筋でみられた。

【対象生物】

干潟に生息する水生生物

【調査結果概要】

- ・花見川右岸では、25種の干潟生物が確認されました（写真1、写真3、表1）。なお、ハマグリ、オオノガイ、ソトオリガイは、斃死後あまり時間が経っていない死がい確認されました。
- ・花見川右岸には、護岸、砂泥質干潟、潮だまり・濡筋、カキ礁といった環境がみられ、それぞれの環境に特徴的な生物が確認されました（写真2）。
- ・確認された25種のうち、6種は環境省、千葉県、ベントス学会のレッドデータブック等で重要種に選定されており、花見川の生物生息環境としての重要性が確認されました。
- ・外来種は、コウロエンカワヒバリガイ、ホンビノスガイ、タテジマフジツボ、ヨーロッパフジツボが確認されました。



写真1 調査範囲全景

表1 確認種一覧

No.	綱	科	種名		生息環境				RDB選定状況			備考
			和名	学名	護岸	砂泥質干潟	潮だまり・濡筋	カキ礁	環境省	千葉県	ベントス学会	
1	二枚貝	イガイ	ホトキスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>			○					
2			コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	○			○				外来種
3		イサキガキ	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○			○				
4		ニッコウガイ	ヒメシラトリガイ	<i>Macoma incongrua</i>		○						
5		フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>	○			○	NT	A		
6		シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>		○	○		NT	B	NT	
7		マルスタシカイ	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>		○						外来種
8			ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>		○			VU	X	VU	
9			アザリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		○						
10		オオノガイ	オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>		○			NT		NT	
11		オキガイ	ウツガイ	<i>Laternula marilina</i>		○				C		
12	ゴカイ	チロリ	チロリ属	<i>Glycera sp.</i>		○						
13		ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>		○						
14	顎脚	フジツボ	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	○			○			外来種	
15			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	○			○			外来種	
16			シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>	○			○				
17	軟甲	テナガエビ	エビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>			○					
18		ホンヤトカリ	エビナガホンヤトカリ	<i>Pagurus dubius</i>	○		○	○				
19		アサシヤコ	アサシヤコ	<i>Upogebia major</i>		○						
20		コムツガニ	コムツガニ	<i>Scopimera globosa</i>		○				D		
21		モクスガニ	タカノケツガイガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	○	○		○				
22	硬骨魚	ハゼ	ミスハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	○							
23			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>			○					
24			アハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>			○					
25			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○					
種類数					9	12	7	8	4	5	3	4
					24			6				

注1) 環境省：環境省レッドリスト(2018)；VU(絶滅危惧Ⅱ類)、NT(準絶滅危惧)
 2) 千葉県：千葉県の保護上重要な野生動物-千葉県レッドデータブック-動物編(2011)；A(最重要保護生物)、B(重要保護生物)、C(要保護生物)、D(一般保護生物)、X(消息不明・絶滅動物)
 3) ベントス学会：干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック(2012)；VU(絶滅危惧Ⅱ類)、NT(準絶滅危惧)
 4) ※：斃死後あまり時間が経っていない死がいを確認。



砂泥質干潟



潮だまり・滞筋



カキ礁

写真2 干潟生物の生息環境



コウロエンカワヒバリガイ



マガキ



ヒメシラトリガイ



ウネナシトマヤガイ



ヤマトシジミ



ホンビノスガイ



ハマグリ(死がい)



アサリ



チロリ属



ミズヒキゴカイ



タテジマフジツボ



ヨーロッパフジツボ



シロスジフジツボ



ユビナガスジエビ



ユビナガホンヤドカリ



アナジャコ

写真3 (1) 確認された干潟生物



コメツキガニ



タカノケフサイソガニ



ミミズハゼ



マハゼ



アベハゼ



チチブ

写真3 (2) 確認された干潟生物

干潟調査のレポート④

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
昭和シェル石油株式会社	お台場海浜公園	2018年9月5日

団体名	昭和シェル石油(株)	
調査地点名	お台場海浜公園	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N35.630833
	経度	E139.776642
実施年月日	2018年9月5日	
参加人数(人)	4名	

発見した生物の種名	特記事項など
イワガニ	4匹発見 栈橋近くの岩場で発見
チコガニ	1匹 干潟で発見
コメツキガニ	大量、干潟で穴掘りしていた
ユビナガホンヤドカリ	1匹
アカエイ	1匹
ウミネコ	2羽
ミズクラゲ	1匹

【イワガニ・チコガニ】



【コメツキガニ】



【調査の様子】



干潟調査のレポート⑤

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
谷津干潟自然観察センター	谷津干潟	2018年6月18日、19日 2018年9月10日、11日

【調査地点】

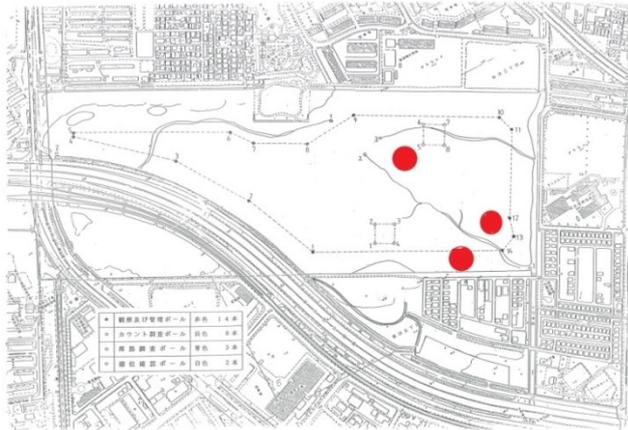


図1 調査地点。赤丸の場所にて採集を実施

【対象生物】

干潟に生息する水生生物 ※魚類、付着生物は除く

【調査結果概要】

各日以下の種が確認されました。

【ベントス】

6月18日：ホソウミニナ、アラムシロ、ヒメシラトリ、ホンビノスガイ、アサリ、タカノケフサイソガニ、コメツキガニ、アシナガゴカイ

9月10日：タテジマイソギンチャク、ホソウミニナ、ヒメシラトリ、ホンビノスガイ、オキシジミ、アサリ、タカノケフサイソガニ、ユビナガホンヤドカリ、ヨコエビ類、ヨーロッパフジツボ、コメツキガニ、アシナガゴカイ、ミズヒキゴカイなど

【魚類】

6月19日：マハゼ、スズキ、チチュウカイミドリガニ、タカノケフサイソガニ、ユビナガホンヤドカリ、ウロコムシ

9月10日、11日：アベハゼ、ボラ、ギマ、マルタ、シロギス、マハゼ、マゴチ、コショウダイ、ビリンゴ、スズキ、コノシロ、トビハゼ、チチュウカイミドリガニ、ガザミ、タカノケフサイソガニ、ユビナガホンヤドカリ、コウロエンカワヒバリガイ

干潟調査のレポート⑥

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
NPO 法人東京港グリーン ボランティア	東京港野鳥公園前浜干潟	2018年8月11日

【対象生物】：干潟のカニ類

【調査方法】：コドラート調査（カクベンの崖：3 m×3 m、その他：0.5 m×0.5 m）
コドラート内のカニ全個体数(可能な限り)を採取する。
コメツキガニは巣穴の数を計数。

【調査結果】

1. カクベンの崖(3m×3mあたり、合計個体数)

種類名	全個体数	個体数/m ²
タカノケフサイソガニ	123	13.7
カクベンケイガニ	8	0.9
コメツキガニ	4	0.4

2. コメツキの浜(0.5m×0.5mあたり合計個体数)

種類名	1	2	3	4(3人分)	5(3人分)	6	7	8	合計	平均巣穴数	巣穴数/m ²
コメツキガニ	11	8	8	27	13	5	7	13	92	7.7	30.7

12人

3. ケフサの礫浜(0.5m×0.5mあたり合計個体数)

種類名	1	2	3	4(2人分)	5	6(2人分)	7	8	合計	平均個体数	個体数/m ²
タカノケフサイソガニ	32	76	31	63	19	66			287	26.1	104.4

11人

3. 水門横(0.5m×0.5mあたり合計個体数)

種類名	1	2	3(2人分)	4	5	6	7	8	合計	平均個体数	個体数/m ²
ケフサイソガニ				5					5	1.0	4.0
タカノケフサイソガニ	28	41	114	38					221	44.2	176.8
イソガニ				13					13	2.6	10.4
カクベンケイガニ				5					5	1.0	4.0
コメツキガニ	2		2						4	0.8	3.2

5人



カクベンケイガニ
(殻幅 15～25 mm)



タカノケフサイソガニ
(殻幅 5～30 mm)



ケフサイソガニ
(殻幅 25～30 mm)



イソガニ
(殻幅 30～35 mm)

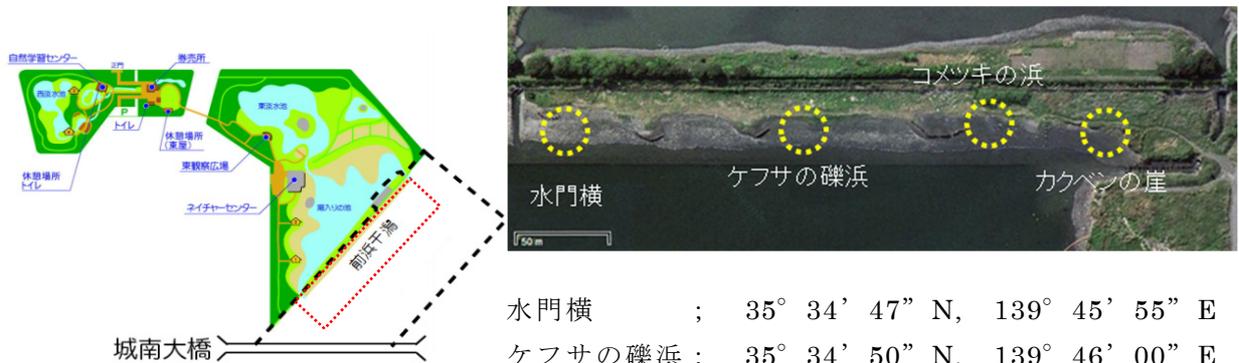


←コメツキガニ (殻幅 8～15 mm)

【その他出現生物(計数はしていない)】

1. カクベンの崖：ハサミムシ・フナムシ
2. コメツキの浜：フナムシ・チロリ
3. ケフサの礫浜：オオツノヒラムシ・ミズヒキゴカイ・不明多毛類(コケゴカイ?、アオイソメ)・タマキビ・イボニシ・マガキ・コウロエンカワヒバリガイ・ホンビノスガイ・ユビナガホンヤドカリ・ヨコエビ類・アメリカフジツボ・タテジマフジツボ・ミミズハゼ
4. 水門横：タマキビ・イボニシ・マガキ・コウロエンカワヒバリガイ・ホンビノスガイ・ユビナガホンヤドカリ・ヨコエビ類・アメリカフジツボ・タテジマフジツボ

【調査地点位置図】

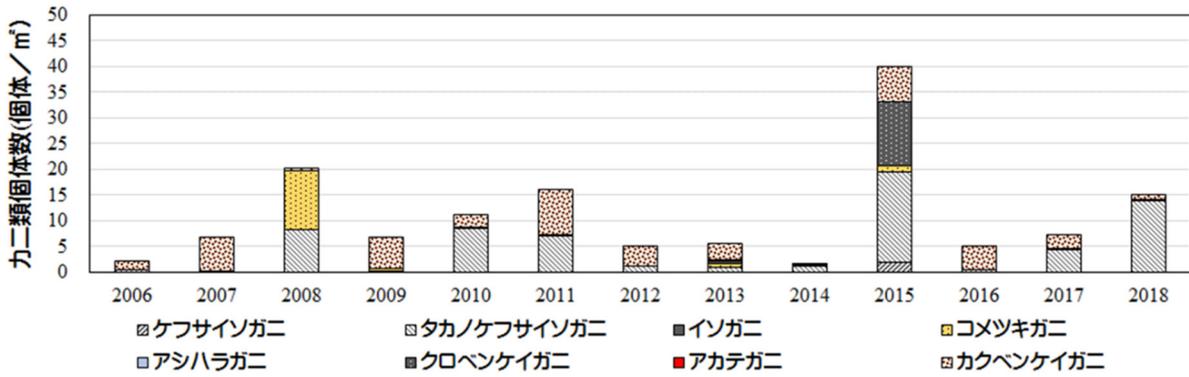


水門横	;	35° 34' 47" N,	139° 45' 55" E
ケフサの礫浜	;	35° 34' 50" N,	139° 46' 00" E
コメツキの浜	;	35° 34' 52" N,	139° 46' 01" E
カクベンの崖	;	35° 34' 54" N,	139° 46' 02" E

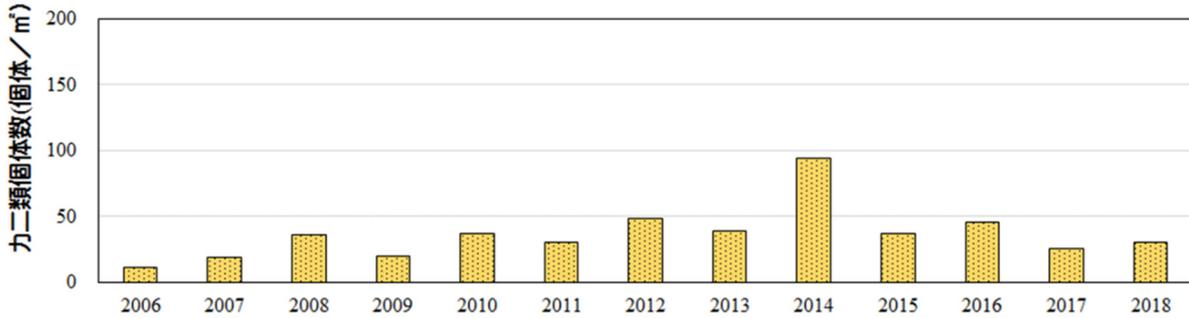
【観察状況】



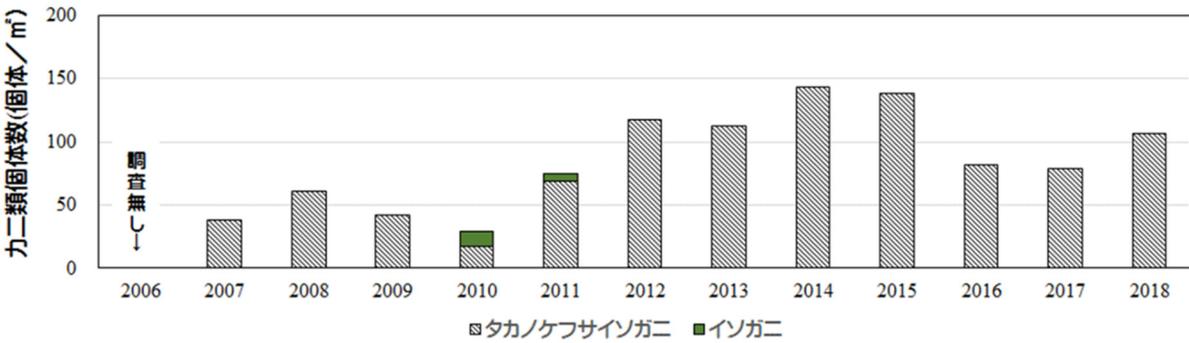
カクベン の 崖



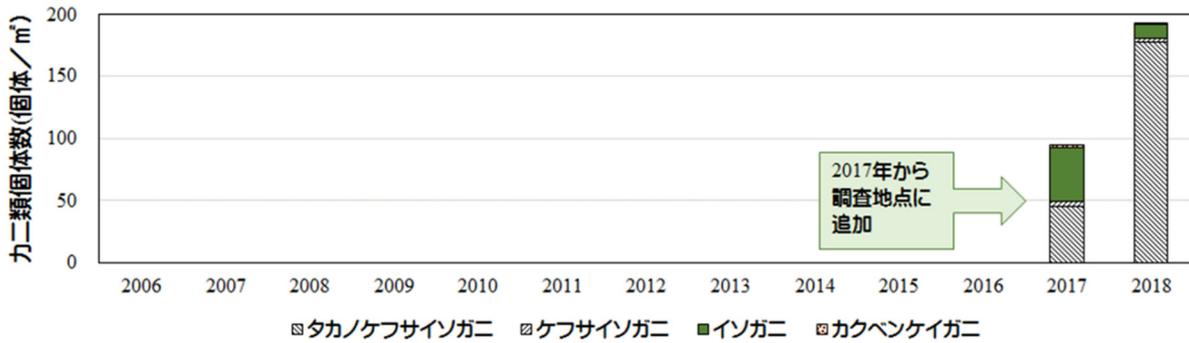
コメツキ の 浜



ケフサ の 磯浜



水門横



干潟の調査レポート⑦

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
NPO21 世紀水倶楽部	葛西海浜公園西なぎさ	2018年8月13日

葛西海浜公園西渚生物調査

NPO 21世紀水倶楽部

2018年8月13日 亀田泰武

1. はじめに

8月13日月曜、大潮の干潮時、西渚を調査。当日干潮は12:23で14cm。お盆休みに試験的に子供の水浴ができることもあり、平日なのに結構な人出。12時頃に現地到着し1.5時間ほど滞在

沖に張られたネット近くまで行って所々砂浜を熊手とスコップで掘って状態を調べた。相変わらず生物は見かけなかった。



同じような大きさの甲羅が深緑色のカニを引っかけたが、逃げてしまった。子供連れの人々がカニを取ったと話していたので、ガザミは少しいるらしい。

貝類は何回も熊手を入れたが2.5cm程度のバカ貝3個だけで、稚貝も全く見なかった。



叩いてもカキ殻をはがすことができない。

やっと長さ5cm程度の殻が一つ取れたので家に帰って割ってみたらカキが入っていた。固着できる場所があるとカキが生息できるようなので、西渚のネット外側にコンクリート製のなにかを置けばカキが生息し、水質改善に役立つと思われる。



2. 観察

沖の方に行くまでの水溜は水温が高く40度くらいに感じた。あちこちにある小さな穴は、スコップで少し深く掘ってもなにも出てこなかった。一カ所では水が奥から吹き出してきた。

沖近くでは多少生物が見られた。カニでは、長さ7cmくらいのガザミのような抜け殻があったほか熊手で



西渚への橋の陸側の岸の水際でなにかを取っている人が数人いたので帰りに降りてみた。水際はカキが密生しているようで、強固にくっついていて熊手で



調査情報		
団体名	NPO21世紀水倶楽部	
調査地点名	葛西海浜公園西渚	
位置座標 (可能であれば) <small>※スマートフォン・タブレット端末等の地図アプリで取得してください。</small>	緯度	35.637
	経度	139.857
実施年月日	2018年8月13日 12:40頃 大潮干潮時	
参加人数(人)	1	
調査結果		
種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ		
ケフサイソガニ		
タカノケフサイソガニ		
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ		
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
アカテガニ		
コメツキガニ		
チゴガニ		
オサガニ		
ヤマトオサガニ		
種類不明のカニ	2	ガザミの形状名前?。沖合ネットの近く。

9-2 その他の調査

(1) 調査参加機関

平成30年度の調査では、干潟以外の調査について9団体から報告がありました(表9-4)。

表9-4 その他の調査の実施実績

報告書 番号	実施機関	調査場所	実施日	調査内容
①	板橋区	白子川、石神井川	7月26日、 7月27日	魚類、底生動物
②	江戸川区	江戸川、旧江戸川、 外海、葛西海浜公園 東なぎさ	7月12日、 9月11日	魚類、底生動物
③	株式会社 日本海洋 生物研究所	多摩川河口	8月10日	コアマモ
④	川崎市環境局環境総 合研究所環境リスク 調査課	東扇島東公園人工 海浜	7月12日、 8月10日	水生生物
⑤	ダイダン株式会社 技術研究所	柳瀬川	8月1日	水生生物、昆虫
⑥	東京都環境局自然環 境部水環境課	城南大橋、お台場 海浜公園、葛西人 工渚、東京都内湾	5月1日、 5月10日、 7月12日、 8月1日、 8月2日、 8月7日、 8月27日、 9月18日、 10月9日	魚類、動植物プ ラクトン
⑦	東京湾シギチドリ一 斉調査グループ	多摩川河口、六郷 干潟、森ヶ崎の鼻 など21地点	9月9日	シギ・チドリ類
⑧	富士電機機器制御株 式会社 吹上事業所	北足立第一排水路	8月23日	底生生物など
⑨	横浜・八景島シーパ ラダイス	横浜市海の公園湾 内	10月10日	水生生物

(2) 調査実施地点

調査は、図 9-8 及び図 9-9 に示す地点で実施されました。

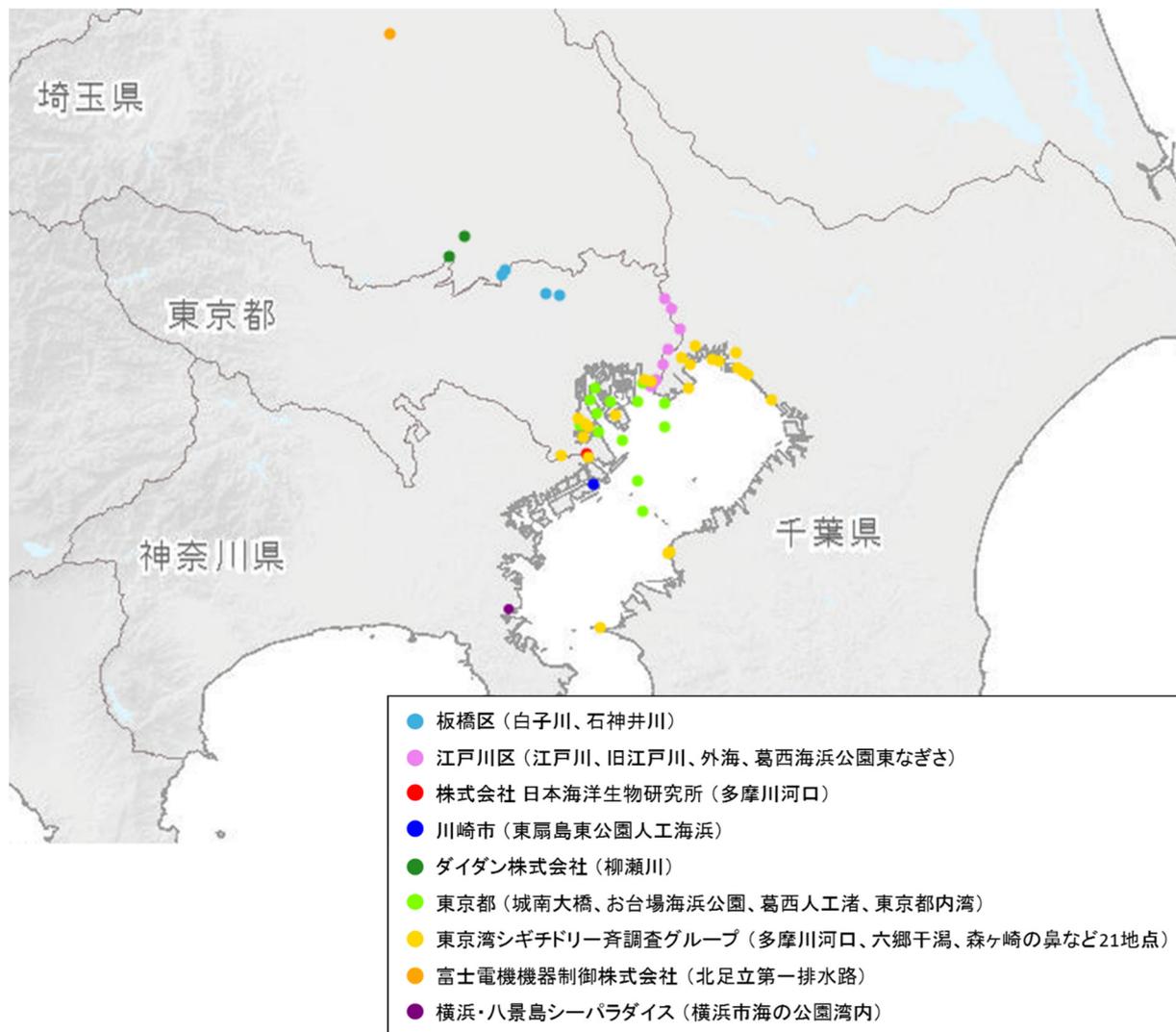


図 9-8 その他の調査の実施地点 (全体図)

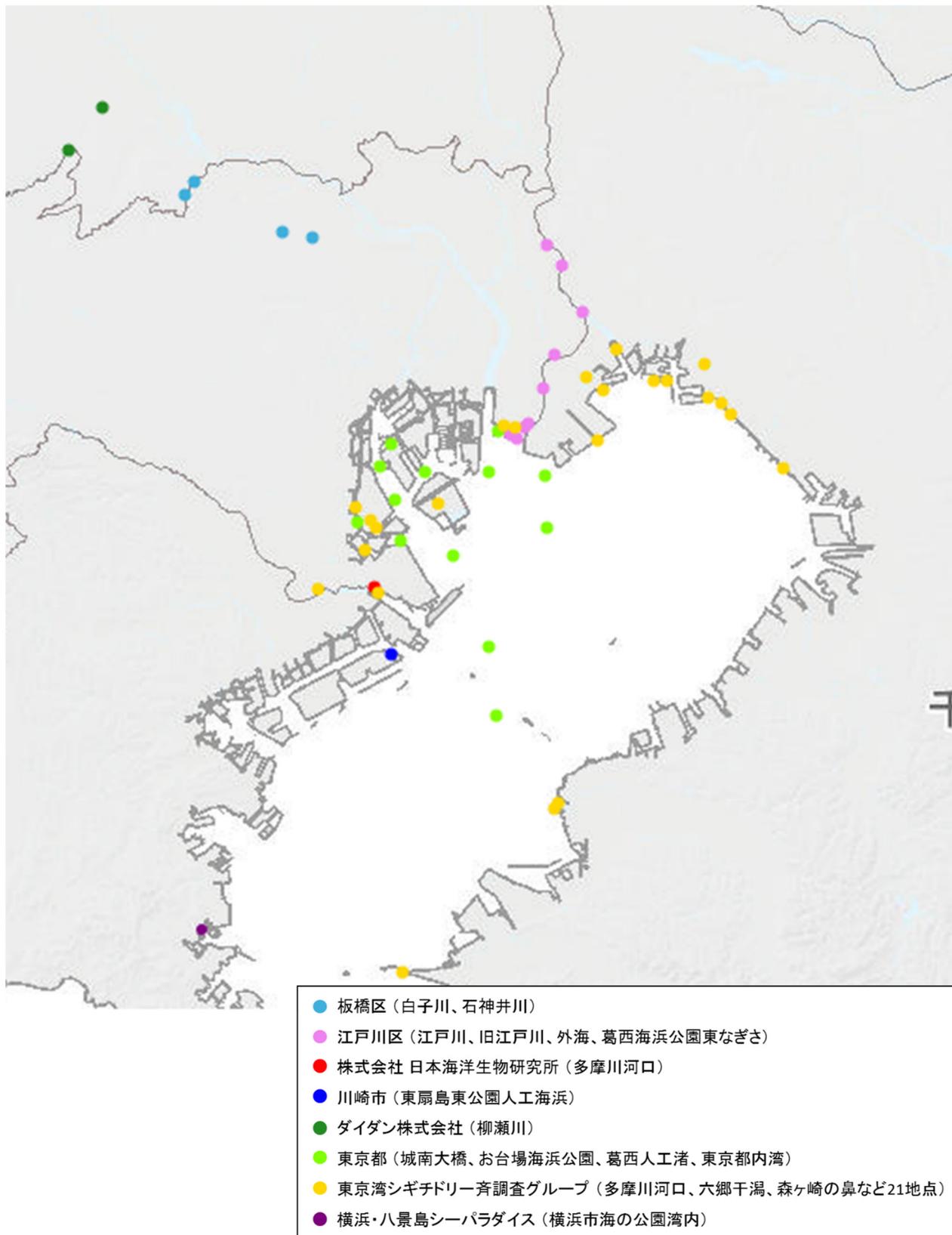


図 9-9 その他の調査の実施地点（東京湾拡大図）

(3) 各調査のレポート

各調査のレポートを紹介します。

生物調査（干潟以外）のレポート①

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
板橋区	白子川、石神井川	2018年7月26日、 27日	魚類、底生動物

1 調査概要

① 調査地点及び調査日時等

河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温 (℃)	水温 (℃)
白子川	①東埼玉橋上流付近	2018/7/26 (木) 9:00~11:30	晴れ	27.5	24.5
	②白藤橋付近	2018/7/26 (木) 12:15~15:30	晴れ	30.5	25.0
石神井川	①久保田橋付近	2018/7/27 (金) 9:00~11:30	晴れ	27.0	22.5
	②緑橋付近	2018/7/27 (金) 13:30~15:30	晴れ	27.0	25.0

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網（手網）及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

なお、緑橋地点では、その他に定置網も設置し、魚類を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。

2 調査結果

① 河川状況

(1) 白子川①東埼玉橋上流付近

東埼玉橋直下にS型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所を設置した。



(2) 白子川②白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約100mの位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所を設置した。



(3) 石神井川①久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている 2 箇所に設置した。

定置網は 7 月 26 日 17 : 00 に久保田橋下流の植生ブロック下に 1 箇所設置した。



(4) 石神井川②緑橋付近

この付近は河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より少なくなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計 2 箇所設置した。

定置網は調査当日 (7 月 27 日 13 : 30) に緑橋の上流に 1 箇所設置した。



② 魚類調査結果

白子川、石神井川の 4 地点全体では、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウ、スミウキゴリなど、4 目 7 科 15 種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2018」に該当する種として、絶滅危惧 I B 類に該当するニホンウナギ、絶滅危惧 II 類に該当するギバチ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2013 区部」に該当される種として、絶滅危惧 I A 類に該当するギバチ、絶滅危惧 II 類に該当するニホンウナギ、アブラハヤ、ヒガシシマドジョウ、留意種に該当するヌマチチブが確認された。

また、特定外来生物等に該当する外来種は確認されなかった。

No.	目名	科名	種名	学名	白子川 ①東 埼橋 上流 付近	白子川 ②白 藤橋 付近	石神 井川 ①久 保田 橋付 近	石神 井川 ②緑 橋付 近	合計	環境省 RL2018	東京都 RDB2013 区部	外来種
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		1			1	EN	VU	
2	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		20<			20			
3			アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>			7	100<	107		VU	
4			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>			3	6	9			
5		ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	3		52	4	59	NT		
6			ヒガシシマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type C			3	4	7		VU	
7	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	<i>Tachysurus tokiensis</i>			100<	6	106	VU	CR	
8	スズキ目	スズキ科	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>		3			3			
9		ボラ科	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>		100<			100			
10		ハゼ科	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i>	10	6			16			
11			ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		2			2			
12			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		100<			100			
13			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	2				2			
14			旧トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius</i> sp. OR morphotype unidentified	3				3			
15			スマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		100<			100			留
	4目	7科	15種	種類数計	4	8	5	5	15	3	5	0
				個体数計	18	332	165	120	635			

・「環境省RL2018」: 環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2018年

- EN : 絶滅危惧IB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 VU : 絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種
 NT : 準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

・「東京都RL2013区部」: レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～ (2014年3月)

- CR : 絶滅危惧 I A類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 VU : 絶滅危惧 II 類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、
 近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
 留 : 留意種 現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの

・個体数計において“100<”は“100”、“20<”は“20”として加算。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2017」に従った。

・外来種は以下に従った。

- 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。特定外来生物
 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)
 該当種無し

③ 底生動物調査結果

白子川、石神井川の4地点全体では、モノアラガイ属、エラミミズ、シマイシビル、カワリヌマエビ属など、7綱15目24科26種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2018」に該当している種はなかったが、「東京都 RL2013 区部」の準絶滅危惧に該当する種としてコオニヤンマ、留意種に該当する種として、スジエビ、モクスガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「緊急対策外来種」に該当する種としてアメリカザリガニが確認された。

No.	綱名	目名	科名	和名	学名	白子川 ①東橋橋上流付近	白子川 ②白藤橋付近	石神井川 ①久保田橋付近	石神井川 ②緑橋付近	合計	環境省 RL2018	東京都 RDB2013 区部	外来種	
1	普通海綿綱	ザラカイメン目	タンスイカイメン科	ヨワカイメン	<i>Eunapius fragilis</i>			○		—				
2	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>			1	1	1				
3				アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorotocephala</i>	1		1	2	4				
4	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>	6				6				
5		汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.			16	14	30				
6			サカキガイ科	サカキガイ	<i>Physa acuta</i>	2				2				
7	ミミズ綱	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科	Lumbricidae			1	1	2				
8		イトミミズ目	ミズミミズ科	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>			18	2	20				
9		ツリミミズ目	フトミミズ科	フトミミズ属	<i>Pheretima</i> sp.			4		4				
10			ツリミミズ科	ツリミミズ科	Lumbricidae			1		1				
11	ヒル綱	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	4	2	7	14	27				
12	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi</i>		3			3				
13		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	32		79	93	204				
14			テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaeon paucidens</i>			1		1		留		
15			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	5			1	6		緊		
16			モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	1	1	2		4		留		
17	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ウデマギリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>	1	1			2				
18		トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	コオニヤンマ	<i>Streblopterus albardae</i>	1				1		NT		
19		カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ亜科	Gerrinae	1				1				
20		トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>				1	1				
21				ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>				1	1				
22			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila</i> sp.	1				1				
23			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>	1				1				
24		ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ属	<i>Tipula</i> sp.		1			1				
25			チョウバエ科	チョウバエ科	Psychodidae	1				1				
26			ブユ科	ツノマユブユ属	<i>Eusimulium</i> sp.	1				1				
						種類数計	14	5	12	9	26	0	3	1
						個体数系	58	8	131	129	326			

注) ○: 群体のため個体数は計測できない
種数の合計は単純集計

・「環境省RL2018」: 環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2018年
該当種無し

・「東京都RL2013区部」: レッドデータブック東京2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~(2014年3月)
昆虫類は地域区分ごとの情報量の差が大きく、評価できない地域が多くあるため、区部、北多摩、南多摩、西多摩の4地域区分に加えて、本土部全体のランクをつけている。
NT: 準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
留: 留意種 現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

・外来種は以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省、に指定された種(2017)。特定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省、に指定された種(2016)

緊: 緊急対策外来種 対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

生物調査（干潟以外）のレポート②

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
江戸川区	江戸川、旧江戸川、葛西海浜公園東なぎさ、外海	2018年7月12日 2018年9月11日	魚類、底生動物

【対象生物】

魚類及び底生動物

【調査地点】

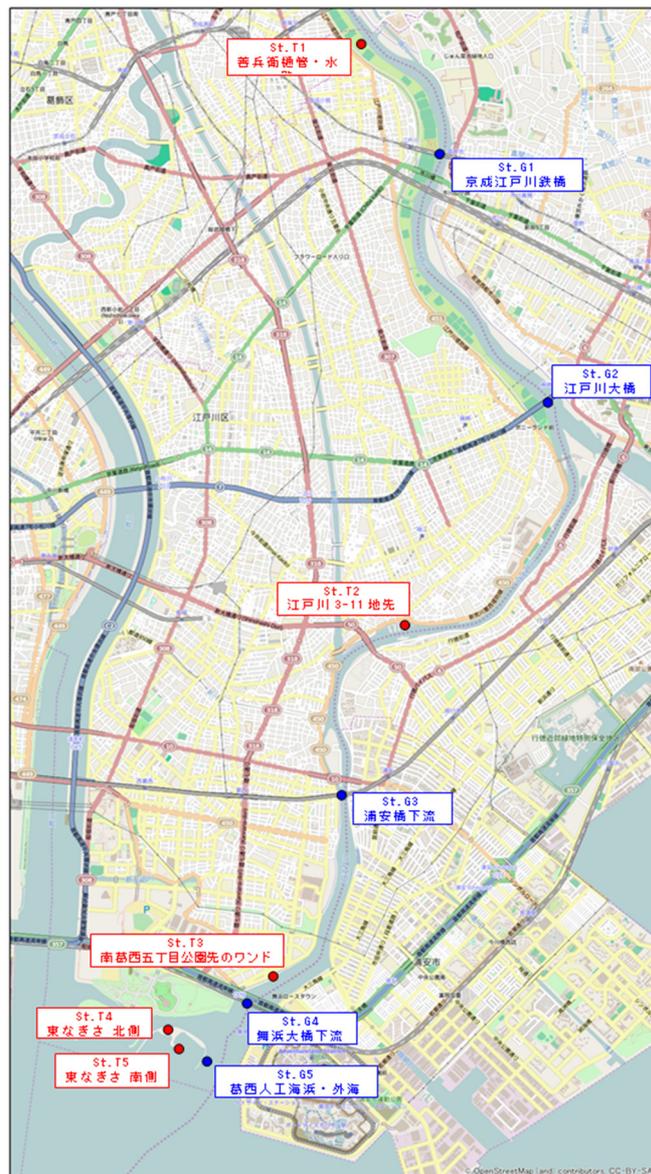


図1 調査項目及び調査地点